

# 進捗状況報告シート

(2010年度・大学)

担当部局は☆印の箇所を記入のこと。

## I. 評価項目・要素と担当部局

対象部局	統括部局：学生部	担当部局：学長室・教務部・学生部
大項目	8 学生支援（研究科）《全学的な視点》	
中項目		
小項目	8.0.1 学生が学修に専念し、安定した学生生活を送ることができるよう学生支援に関する方針を明確に定めているか。 【担当部局：学長室】	
要素	学生に対する修学支援、生活支援、進路支援に関する方針の明確化	
小項目	8.0.2 学生への修学支援は適切に行われているか。	
要素	留年者および休・退学者の状況把握と対処の適切性【担当部局：学長室】 補習・補充教育に関する支援体制とその実施【担当部局：教務部】 障がいのある学生に対する修学支援措置の適切性【担当部局：教務部】 奨学金等の経済的支援措置の適切性【担当部局：学生部】	
小項目	8.0.3 学生の生活支援は適切に行われているか。【担当部局：学生部】	
要素	心身の健康保持・増進および安全・衛生への配慮 ハラスメント防止のための措置	

## II. 自己点検・評価《進捗状況報告》

### 【現状の説明】

#### 《目標・指標》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定した。

目標の進捗状況は「A:適切に実行している」「B:概ね実行している」「C:必ずしも実行していない」「D:実行していない」とし、自ら評価した。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗評価
1. 「オンリーワン」の学生を育てるために、効果的で総合的な学生支援を推進する体制を整備する。	→学生支援に関する全学的な方針を定める。	C
2. 障がいをもつ学生に対して総合的な支援を行う体制を整備する。	→キャンパス自立支援課と学生支援センターの統合	C
3. キャンパス・ハラスメント防止に関する研究会を、各組織がそれぞれ最低5年間に1回は開催する（2010年4月段階で、11学部及び併設の研究科、2つの専門職大学院、1つの独立研究科 合計14組織）。	→各組織の研究会開催状況（開催件数）。5年間に最低1回はキャンパス・ハラスメントの講演会を開催する。	B

2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗評価
	→	☆
	→	☆

### 《小項目ごとの現状説明》 ※ 全小項目について記述が必要

☆ 小項目8.0.1	<p>(方針) 総合的な学生支援の基本コンセプトの実現に向けてまず学内各部局に散在しているデータや二つの追跡調査をもとに、学内に存在するデータの把握と整理し、ここから学生支援に関するデータ収集及び分析のための枠組み設計を行う。そこから全学的な会議体「総合的な学生支援連絡会（仮称）」を立ち上げ、総合的な学生支援に向けた全学的な施策立案を行う。</p> <p>(現状説明) 総合的な学生支援を進めるため、担当の副学長、学長補佐を任命し、さらに専任職員を1名配置した。今後は総合的な学生支援小委員会を設置し、総合的な学生支援の基本コンセプトの実現に向けてまず学内各部局に散在しているデータや二つの追跡調査をもとに、学内に存在するデータの把握と整理を行う。ここから学生支援に関するデータ収集及び分析のための枠組み設計を行う。また2010年度の下期には「総合的な学生支援連絡会（仮称）」の立ち上げ、総合的な学生支援に向けた全学的な施策立案を行う。</p> <p>新中期計画の実施計画案の「ロードマップ」から一部変更しているものの、概ね計画通り進んでいる。しかし計画実行中であるため、進捗評価は「C」として今年度末もしくは次年度初めに進捗状況について評価したいと考える。</p>
☆ 小項目8.0.2	<p>(現状説明) 障がいをもつ学生に対する総合支援体制の整備については、2010年4月にスタッフの交代があり、新たな体制で障がいのある学生の支援を進めている。本学は障がい学生支援について拠点校に位置づけられており、その役割を担うために研鑽を重ねている。現段階では一定程度の支援ができており、しかしながら、大学の規模が拡大し、障がいのある学生の数も増加しており（とくに発達障害のある学生）、今後の対応を進める必要がある。また、学生支援という観点では多様な幅広い対応が必要となっており、学生支援を担う部署を統合して、総合的な支援が行えるようにする必要がある。さらに関西学院内の学校（中学部、高等部、千里国際学園）にも障がいのある学生が在学しており、大学だけではなく、学院全体で取り組む必要も出てきている。このような状況を受け、現在、大学新中期計画の施策「学生支援センターとキャンパス自立支援課の統合」において具体案を検討している。</p>
☆ 小項目8.0.3	<p>(現状説明) 学部・研究科における部局独自のキャンパスハラスメント研修に関して、2005年度は2件、2006年度は2件、2007・2008年度はいずれも0件であったが、2009年度に補助金制度等を設定、結果、学部で2件、研究科で1件の研修会が開催できた。2010年度は、年度始めに、あらためて学部・研究科に対して補助制度を周知すると共に、研修資料を提供することで、より開催しやすい環境の整備に努めている。</p>

☆	その他
---	-----

## 《特定6項目データ》

本項目は数量的なデータによる評価(現状分析)が可能のため、次のとおり指標を定め経年比較している。

	単位	2005	2006	2007	2008	2009	備考	
指標1 在籍学生一人あたりの奨学金金額	支給	円	25,148	26,530	27,214	30,011	35,968	支給奨学金総額÷在籍学生数
	貸与	円	190,901	210,852	232,482	249,000	262,927	貸与奨学金総額÷在籍学生数
指標2 奨学金採択率	支給	%	7.3	8.4	7.3	9.3	9.9	支給奨学金採択者数÷在籍学生数
	貸与	%	27.3	29.3	32.1	33.5	34.7	貸与奨学金採択者数÷在籍学生数
指標3 奨学金受給者一人あたりの額	支給	円	345,972	315,289	368,886	322,143	363,566	支給奨学金総額÷支給奨学金受給者数
	貸与	円	698,411	718,631	722,148	744,000	758,307	貸与奨学金総額÷貸与奨学金受給者数
指標4 学生支援センターの利用者数	人	2,201	2,347	2,146	2,257	2,018	利用者数は延数	
指標5 退学者比率	%	1.33	1.28	1.26	1.13	1.31	退学者数÷在籍学生数	
指標6 学生生活の充実度	%	-	71.60	-	-	-	「充実している」「まあまあ充実している」「普通である」「あまり充実していない」「充実していない」のうち「充実している+まあまあ充実している」とする。	
指標7 学生会公認団体/自治会傘下団体の構成員比率	%	19.79	22.68	21.53	22.03	20.44	(学生会公認団体構成員数+自治会傘下団体構成員数)÷在籍学生数	

注)奨学金は学内および学外を合計した金額とし、指標1~4は学部生、大学院生、専門職大学院生を対象とし、指標5~6については学部生を対象とする。

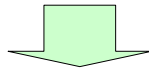
注)指標4は、西宮上ヶ原キャンパス、神戸三田キャンパスの利用者の合計とする。

注)指標7について、学部生、大学院生、専門職大学院生を対象とし、学生会公認団体は6総部(体育会、文化総部、応援団総部、新聞総部、総武放送局、宗教総部)、自治会傘下団体は法学部自治会、商学部商学会研究会委員会とする。母数となる在籍学生数は5月1日現在の数字。

## ◎効果が上がっている事項

## 【点検・評価(1)】効果が上がっている事項

小項目8.0.1	現状報告の通り、学内各部局に散在しているデータや二つの追跡調査をもとに、学内に存在するデータの把握と整理を実行に移した。
小項目8.0.2	
☆ 小項目8.0.3	年度始めに学部・研究科に対して補助制度の周知及び各種研修資料を提供することで、各部局の意識が高まっている。
その他	



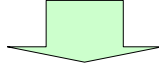
## 【次年度に向けた方策(1)】伸長させるための方策

小項目8.0.1	継続して学生支援に関する正確なデータ収集及び分析のための枠組み設計を行う。また2010年度の下期には「総合的學生支援連絡会(仮称)」の立ち上げ、総合的學生支援に向けた全学的な施策立案を行う。
小項目8.0.2	
☆ 小項目8.0.3	各種研修資料の一つに、人事課、宗教センターが所蔵しているハラスメント関連の研修ビデオ情報が含まれているが、今ひとつ活用されていないので、学部・研究科に強制的に貸し出し、所属の教職員がいつでも見られる環境をつくりだす。
その他	

## ◎改善すべき事項

## 【点検・評価 (2)】改善すべき事項

小項目8.0.1	現状報告の通り、データの把握と整理の進捗状況によって改善点を確認していく。
小項目8.0.2	統合に関して、支援を必要とする学生の増加および多様な障がい種や程度への対応をしていくため、組織体制の整備と、障がい者支援に対する、学長府、法人および教職員の理解が必要。
★小項目8.0.3	キャンパスハラスメントに関する意識を常にもってもらう必要があるため、現行の方式に満足せず、常に改善を行う。具体策は、次年度に向けた方策に記載。
その他	



## 【次年度に向けた方策(2)】改善方策

小項目8.0.1	現状報告の通り、データの把握と整理の進捗状況によって改善点を確認していく。
小項目8.0.2	統合に関しては新たな総合支援センターの計画案を策定し、新たな体制整備への理解が得られるよう進めていく。
★小項目8.0.3	年度始めに学部・研究科に対して補助制度の周知及び各種研修資料を提供しているが、年度途中にも、情報を更新して発信する。
その他	

## ◎自由記述

## 【点検・評価】&amp;【次年度に向けた方策】

★その他 (自由記述)	
----------------	--

## Ⅲ. 学内第三者評価

<評価推進委員会からの評価> (実務作業は評価専門委員会、評価情報分析室、企画室)

## 【学外委員】

- 障害をもつ学生への支援は具体的な取り組みが記述されているなど、積極的な姿勢がみられています。
- それに比して、キャンパスハラスメントの活動は、その取り組みの姿勢や改善の成果について、曖昧な記述が多いところが懸念されます。何がボトルネックなのか、根本的な検討が望まれます
- データの統合、2つの追跡調査の整備、とその活用を今後進めていくことが期待されます。

## 【学内委員】

- 学部以上に教員と学生の関係が密になるかと思われますので、ハラスメント防止への対応が十全となることを期待します。
- 小項目8.0.1の現状説明における(方針)が現在策定中であれば、「策定中」の表記で結構です。方針に書かれていることは、(現状説明)において記載されています。
- 「学生支援に関する全学的な方針」の策定を目標に掲げられています。新基本構想・新中期計画の施策としてその早期実現が期待されます。
- 進路支援の方針は、小項目8.0.4でキャリア・センターが明示しています。本小項目に移されることが適当ですが、シートの構成から考えれば、現状の方が見やすいのでこのままとします。ただし、「進路支援の方針は小項目8.0.4に記載」と明示してください。
- 発達障がいのある学生への対応は適切な対応が必要です。全学的な対応が望まれます。
- 大学院生への修学支援、生活支援についての課題はないのでしょうか。
- 効果的で総合的な学生支援とはどのようなものか、その実現のためにいかなることが考えられているのでしょうか。
- 大学基準協会の「評価に際し留意すべき事項」(ハンドブックP78~)に留意してください。ここで示されていることについて現状説明していくことも基準の自己チェックにもなり有効です。基準に達していない場合は、必ず記述してください。

## Ⅳ. 学内第三者評価の評価結果を受けての追加記述

★	学外委員から指摘のあったキャンパス・ハラスメントの施策については、ハラスメント防止のための措置として、「関西学院キャンパス・ハラスメント防止等に関する規程」を親規程として、関西学院大学では「キャンパス・ハラスメント相談規程」「キャンパス・ハラスメント調査委員会規程」を制定し、毎年関連事項を記載したチラシを配布し、学生に周知すると同時に、相談員が随時、学生等からの相談に応じられる体制をとっている。こうした相談員に対する研修を兼ねた形での、各部局での研修会開催を促している。また、研修会を開催しやすくするために補助金制度を新たに立ち上げた。
---	--

## Ⅴ. 本項目の評価指標

## &lt;全学的な指標&gt;

8.0.0.S1	奨学金の申請・採用者数
8.0.0.S2	奨学金の申請者に対する採用者比率
8.0.0.S3	学生支援センターへの学生の相談件数
8.0.0.S4	団体参加学生と団体不参加学生の、この大学で人生の一時期を過ごすことが将来にとって役立つと思っている学生の比率の比較
8.0.0.S5	卒業生のうち、大学時代にクラブ・サークル活動(宗教活動を含む)で学んだことや経験が、現在の生活に役に立っていると思っている比率(特に団体参加者)

## &lt;個別的な指標&gt;

--	--